



© Ngadi Smart

## 開催概要

名称：KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2021  
英語表記：KYOTOGRAPHIE International Photography Festival 2021  
会期：2021年9月18日（土）– 10月17日（日）  
プレス向け内覧会：9月17日（金）

主催：一般社団法人 KYOTOGRAPHIE  
共催：京都市、京都市教育委員会  
後援：京都府  
プレミアムスポンサー：シャネル合同会社  
協賛：ルイナール（MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社）、  
株式会社マツシマホールディングス、オムロン株式会社、  
ハースト婦人画報社、アニエスベー、株式会社 ケリング ジャパン、  
ロエベ ジャパン、株式会社チェリオコーポレーション 他

※全てのプログラム内容・展覧会名・会場・スポンサーの情報は6月23日現在のもの、予告なく変更になる可能性がございます。また後日追加情報を発表いたします。

**KYOTO**  
**GRAPHIE**  
international  
photography festival

京都で開催される写真フェスティバル「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2021」のプレスリリースをお送りします。貴媒体にて情報のご掲載やアーティストへの取材をご検討いただけますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

## 東日本大震災、コロナウイルス、野菜の種、性被害、ジェンダー、水の循環など様々なテーマとエコー（呼応）する、国内外の気鋭のアーティストによる14のエキシビジョンを開催！

世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、日本でも数少ない国際的な写真祭「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」。国内外の重要作家の貴重な写真作品や写真コレクションを、趣きのある歴史的建造物やモダンな近現代建築の空間に展示する本写真祭も、回を重ねるごとに好評を博し第8回までに約100万人の方にご来場いただき、2021年に第9回目を開催する運びとなりました。

2021年の開催は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、秋の開催となります。感染予防に最大限の注意を払い、来場者の安全を確保し安心してお楽しみいただけるよう、最大限に配慮し開催いたします。

2021のテーマ  
ECHO（エコー）

# ECHO

2021年は新型コロナウイルス感染症が世界中を分断して2年目になるが、2011年に東日本を襲った大地震と大津波、そしてその影響で起きた福島原発事故からは10年目にあたる。現在というものが過去に起きた一つ一つの歴史の上に成り立っているのだとしたら、私たちはこの10年間に起きた二つの未曾有の大惨事に少なからず影響を受け、多くのことを学び、自省も含め、人類としての進化を遂げなければならないのだろう。人類にとってのこの二つの出来事は、見方を変えれば地球からの悲鳴とも受け取れる。干ばつ、洪水、大気汚染、海洋汚染、品種改良、遺伝子組み替え……これまで地球の叫びになかなか耳を傾けて来なかった過去の歴史が現在にECHO（呼応）する。世界史も日本史も自分史もお互いに響き合って現在、そして未来に繋がっていく。そう考えると、今を切り撮り過去を記録する「写真」という媒体は「ECHO」を生み出す装置とも言えるのではないか。人類が引き起こした問題も含め、今日地球上は問題だらけだが、現実ではノアの方舟に乗って逃げ出すことはできない。さあ、いよいよ人類がアップデートする時がきた。

KYOTOGRAPHIE 共同創設者 / 共同代表  
ルシール・レイボーズ & 仲西祐介

お問い合わせ、取材のご依頼、掲載写真のご用命は  
下記までお問い合わせください。

KYOTOGRAPHIE 事務局  
Tel. 075-708-7108 | Fax. 075-708-7126  
〒602-0898 京都市上京区相国寺門前町 670 番地 10  
<http://www.kyotographie.jp>

## プレス担当

須田千尋 (CHIHIRO SUDA INC) | 東京  
chihiro@chihirosuda.com  
中村 葵 | 関西  
aoi.nakamura@kyotographie.jp

## メインプログラム

### 14 のメインプログラムを京都市内十数会場で展示

※新型コロナウイルス感染症拡大等の状況により、変更になる場合もございます

## アーウィン・オラフ Erwin Olaf

京都文化博物館 別館

共催：京都府



(左) アーウィン・オラフ 《Im Wald, Porträt XII》2020 年  
(右) アーウィン・オラフ 《Im Wald, Porträt VII》2020 年  
© Erwin Olaf

1959 年オランダ生まれ。現在オランダ・アムステルダム在住。

世界的なファッションフォトグラファーであると同時に、女性、有色人種、LGBTQ + コミュニティなどにフォーカスをあてた作品を中心に制作している。2019 年、アムステルダム国立美術館に 500 点の作品が収蔵され、オランダ獅子勲章の「ナイト（騎士）」の称号を受勲。

ドイツのバイエルンの森を撮影したランドスケープ作品や、気候変動により住む場所を追われた人などを中心に撮影されたポートレート作品からなる「Im Wald（森の中）」シリーズを展示。

長い歴史の中で移動を繰り返しながら自然を搾取する人間の傲慢さを感じ、対照的に常にその場所に静かに存在する圧倒的な自然の力にインスピレーションを受けたという。

新型コロナウイルスのパンデミックによる自主隔離の様子をとらえたセルフドキュメンタリー作品「エイプリルフール」（2020 年）も発表。

それぞれ日本での発表は初となる。

## 榮榮&映里（ロンロン & インリ）

### RongRong&inri

「即非京都」

（会場は後日発表）



榮榮&映里、シリーズ《即非京都》より、2015-2021 年  
© RongRong&inri

中国写真芸術の先駆者である榮榮(1968 年生)と、日本人写真家の映里(1973 年生)は 2000 年より、「榮榮&映里」として北京で共同制作を開始。中国における写真表現のけん引役を担っている。

2007 年、中国・北京の草場地に中国初となる写真専門の現代写真センター「三影堂撮影芸術中心」を設立。中国における現代写真芸術の発掘、普及、発展のためのプラットフォームとなることを目指し、年間を通して様々な展覧会やプログラムを行っている。

2012 年から 2014 年にかけて、新潟の原始の自然の中で圧倒的な水の生命環に影響を受け「妻有物語」を制作して以来、「生命の水」の存在が創作の根底に流れているという。

2015 年には京都に移住。歴史、文化、風土が複合し重層的な景観を生み出してきた千年の都「京都」の文化的景観の根底に、水循環が深く影響していることに着想を受け生まれた新作「即非京都」を発表する。

## MIROIRS – Manga meets CHANEL /

### Collaboration with

## 白井カイウ & 出水ぽすか

presented by CHANEL NEXUS HALL

誉田屋源兵衛 竹院の間

協力：株式会社集英社



© 白井カイウ・出水ぽすか/集英社

「週刊少年ジャンプ」（集英社刊）の人気作『約束のネバーランド』の原作者・白井カイウ & 作家・出水ぽすかと、シャネルの協業による展覧会。

シャネルというブランドからインスピレーションを受けて描き下ろされたマンガ『miroirs』が集英社ジャンプコミックスより今春刊行された。本展では、描き下ろされたマンガ作品とともに、ロベール・ドアノー、フランク・ホーヴァット、マン・レイ、ベレニス・アボット、セシル・ピートン等、著名な写真家による写真作品をはじめ、シャネルの貴重な資料も展示される。

マンガ作品に込められたメッセージと、そのインスピレーション源となったシャネルの精神（スピリット）について複合的に表現された展覧会では、作者たちとシャネルとの時代を越えた出会いを追体験することができる。

## デイヴィッド・シュリグリー

### David Shrigley

presented by Ruinart

ASPHODEL



デイヴィッド・シュリグリー 《無題》2019 年

1968 年イギリス生まれ。現代芸術家。日常生活のありふれた光景を機知に富んだ切り口で描いた作品がよく知られており、駄じゃれ、ダブル・ミーニング、皮肉、厭世観など英国らしいユーモアのセンスがふんだんに盛り込まれている。

ドローイングを中心に、彫刻、巨大インスタレーション、アニメーションや絵画、写真、音楽など、幅広い分野で活動している。

世界最古のシャンパーニュ・メゾンであるルイナールは、1896 年にアルフォンス・ミュシャに作品制作を依頼。その後毎年、気鋭のアーティストにより自然の豊穡や職人の匠（たくみ）の技の奥深さを彼らの感性で表現した作品が発表されている。

シュリグリーは、茶目っ気あふれた好奇心旺盛な視点で、シャンパーニュの原材料を育むブドウ畑とその伝統、職人技を表現。シュリグリーのユーモラスな作品は、メゾンが創業当初から大切にしている自然や環境という存在に思いをはせる豊かさに気付かせてくれる。

## インフェイ・リャン

(梁莹菲)

Yingfei Liang

KG+ Select 2020 Award Winner

Sfera

インフェイ・リャン (Beneath the Scars Part II, 4) 2018年  
© Yingfei Liang



中国・広州生まれ。2015年に中国を代表する経済メディア「財新メディア」に参画。フォトジャーナリストとして、中国のスポットニュースと社会的マイノリティに関する報道に携わる。

性暴力のサバイバー（被害から生き抜いた人）のトラウマティックな記憶やその後の人生をなぞり、時に三人称、時に一人称で事象を語ることでその被害の本質を浮かび上がらせるマルチメディアプロジェクト「Beneath the scars」が

「KG + Award 2020」グランプリを受賞する。KYOTOGRAPHIE 2021では、「Beneath the scars」が新たなアプローチで再編され、展示される。

2020年5月に武漢でCOVID-19によって家族を失った人々の物語を取り上げた短編映像作品「Good Morning, My Wife In Heaven」が、世界報道写真オンライン映像オブ・ザ・イヤーに入賞するなど、近年注目が集まっている。

## Women Artists from the MEP Studio: New perspectives in film and photography from France

supported by Kering's *Women In Motion*

キュレーター：サイモン・ペーカー

HOSOO GALLERY

マルグリット・ボルノゼール (Sans titre)、シリーズ(Moisson Rouge)より  
© Marguerite Bornhauser



パリのMEP（ヨーロッパ写真美術館）が選んだ5人のフランス人若手女性アーティストによるグループ展。2018年、MEPは若手アーティストの初個展を開催することと若手女性アーティストの支援を目的とした施設「Studio」を新たに開設した。

本展では、ジャンルや分野の垣根を越えて横断的な活動を見せているフランスの新世代の写真作家たちの表現の豊かさ、多様性、そして独自性を紹介する。本展の5名の作家（マルグリット・ボルノゼール Marguerite Bornhauser、マノン・ランジュエール Manon Lanjouère、アデル・グラタコス Adèle Gratacos、そして二人組のユニット、クロチルド・マッタ&ニナ・ショレ Clothilde Matta & Nina Cholet）はフランスの活気あふれる現代アートシーンを体現する存在である。作品のハイブリッド性（交雑性）や、写真や映像という表現手法に対する先鋭的なアプローチが特徴的である。

本展は、ケリングの「ウーマン・イン・ムーション」により支援されている。「ウーマン・イン・ムーション」は、アートとカルチャーの分野で活躍する女性に光を当てることを目的として2015年に発足し、以降様々な芸術分野における女性の地位や認識について理解を深め、変化を促すためのプラットフォームになっている。

## ンガディ・スマート

Ngadi Smart

「Manifold」

supported by 株式会社チェリオコーポレーション

フライングタイガー コペンハーゲン 京都河原町ストアー3F

出町樹形商店街

DELTA/KYOTOGRAPHIE Permanent Space

ンガディ・スマート (The Faces of Abissa) 2016  
© Ngadi Smart



西アフリカのシエラレオネ出身のンガディ・スマートは、ロンドンとアビジャン（コートジボワール）を拠点にヴィジュアル・アーティストとして活動している。イラストレーション、写真、デザインに加え、コラージュなどのミクストメディアも制作している。

イラストレーションでは、アイデンティティ、人種差別、フェミニズム、ジェンダーなどに焦点を当て弱者の声を表現することで、「普通」「美しさ」「正しさ」の定義に疑問を投げかける。風俗、サブカルチャー、関係性などをテーマに写真作品も発表。近年はアフリカ人としての視点で、その官能性や文化を記録することにも関心を抱いている。

KYOTOGRAPHIE2021では、「The Queens of Babi」(2020年)や「Documentary | The Faces of Abissa」(2016年)などの写真作品や、コラージュ作品などを発表予定。KYOTOGRAPHIE2021の招聘作家として京都のローカル商店街のひとつ出町樹形商店街とコラボレーションし、商店街の様々な催しが撮られた古写真と現代の商店街の写真のエコー（呼応）させたコラージュ作品を新たに制作し発表する。

## トーマ・デレーム

Thomas Dhellemmes

両足院 (建仁寺山内)

トーマ・デレーム (Légumineux, solanum lycopersicum - tomato) 2009年  
© Thomas Dhellemmes



1963年フランス生まれ、現在パリ在住。幼少時より写真に熱中する。

ヴィジュアルアートを学んだのち、カーベルデ共和国に移住。パリに戻って来たのち、写真に身を捧げることを決意する。写真スタジオ「Atelier Mai 98」を設立し、ライフスタイル・美食・ラグジュアリーをテーマとしたコミッションワークを手がけるほか、個人の作品制作にも力を注ぐ。2000年代以降はボラロイド「SX 70」を使用して作品を制作。

KYOTOGRAPHIE 2021では、ヴェルサイユ宮殿の歴史ある「ポテジャーデュロイ (王の菜園)」で栽培が続けられている、希少なながら守られている古代種の野菜を撮影した「Légumineux」シリーズを展示する。

デレームの作品は、生命の儚さや賢さ、根源的な力を私たちに語りかける。

## 八木夕菜

Yuna Yagi

両足院 (建仁寺山内)

八木夕菜 (Seeds on Mr. Iwasaki's palm) 2017年 ©Yuna Yagi



2004年、ニューヨーク・パーソンズ美術大学建築学部卒業。カナダ、ニューヨーク、ベルリンを経て、現在は京都を拠点に活動。「見る」という行為の体験を通して物事の真理を追求し、視覚と現象を使った作品制作、インスタレーションを国内外で発表している。「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 最優秀ポートフォリオ・レビュー／ハッセルブラッド賞」(2016年)受賞。パリ国際現代写真アートフェア、FOTOFEVER (2017年)に招待作家として参加し、2019年 Eberhard Awards にノミネート。

長崎県雲仙市にて有機農業と種の自家採種を30年余り行い、在来種・固定種の野菜の種を守る「種取り農家」の岩崎政利氏の活動に着目。「野菜の一生を見届ける」という岩崎氏が育てる野菜の生命力と、種を守るという営み、雲仙の自然の豊饒さを捉えた。八木の真摯なまなざし越しに映る野菜の生命力は、市場原理に左右される状況や気候変動など、世界中でいま起きているさまざまな問題に静かに一石を投じている。

## Echo of 2011

### —— 2011年から今へエコーする5つの展示

二条城 二の丸御殿 台所・御清所、東南隅櫓（とうなんすみやぐら）

#### リシャル・コラス

Richard Collasse

「波——記憶の中に」



「5月が近づいていた、誰かがこのカオスのなかを歩いて来て、廢墟に鯉のぼりを掲げた。鯉は風をうけて膨らむ、孤独だが勇敢に。それはわたしたちにあるメッセージを投げかける。生きねばならない、呑み込まれた者たちの記憶が消えることのないように、生きねばならない、と。」

#### 四代田辺竹雲齋

（よんだいたなべちゆうんさい）

Chikuunsai IV Tanabe

supported by LOEWE



四代田辺竹雲齋《無限 - INFINITY -》art KYOTO 2020  
京都国立博物館 明治吉都館、2020年  
Photo by Tadayuki Minamoto

#### 片桐功敦

Atsunobu Katagiri

「Sacrifice」



片桐功敦 (Sacrifice) 2014年  
© Atsunobu Katagiri

#### ダミアン・ジャレ & JR

「Brise-Lames (防波堤)」

コレオグラファー：ダミアン・ジャレ  
舞台美術・衣裳：JR  
アソシエイト・コレオグラファー：  
エミリオス・アラポグル  
演奏・楽曲：中野公揮  
パリ・オペラ座 ダンサー：  
Letizia Galloni, Alexandre Gasse,  
Takeru Coste, Heloise Bourdon, Pablo  
Legasa, Juliette Hilaire, Hohyun Kang,  
Clémence Gross, Jeremy Loup Quer,  
Appoline Anquetil  
照明：Fabiana Piccioli



#### 小原一真

Kazuma Obara

「Fill In the Blanks」

キュレーター：天田万里奈



小原一真《無題》2012年  
© Kazuma Obara

2011年の東日本大震災、そしてそれに伴い起きてしまった原発事故から10年。いまだに復興とは程遠い困難な生活を続けている人々がいる。国内外の5組のジャンルの違うアーティスト達による、3.11に対するそれぞれのオマージュ。

1953年、フランス生まれ。シャネル日本法人取締役会長。1971年に初来日して以来日本の文化に深く親しみ、日本で6編、フランスで5編の小説を刊行する。

自身でも写真作品を制作するだけでなく、KYOTOGRAPHIEを創設時より支援し、シャネル銀座ビルディング内に写真に特化したプログラムを開催するアートをスペースを創設するなど、多角的に写真の文化育成に貢献する。

東日本大震災1カ月後に東北を訪れ、「SMILE IN TOHOKU」という女性を対象にしたメイクアップ・サービスをシャネルとしてボランティアで実施する。コラスはいつもカメラを携え、沿岸地区を覆いつくした荒野と悲しみを捉えた。そうして撮った写真と現地に出会った人々の語りに基づき、東北に住む人々の試練についての証言を著した小説『波』を2012年3月に刊行する。本展は、コラスの文章と写真の融合ともいえる展示となる。

大阪・堺で代々竹工芸を営む三代田辺竹雲齋の次男として生まれる。東京藝術大学美術学部彫刻科卒業後、実家のある堺に戻り、三代竹雲齋の下で竹工芸の修行に励む。2001年、アメリカ・フィラデルフィア美術館クラフトショーに招聘され出品、オブジェが所蔵される。その後ボストン美術館、大英博物館、フランス国立ギメ東洋美術館、メトロポリタン美術館など世界各国で展覧会を開催。

「伝統とは挑戦なり」を思想とし、用途に即した花籃（はなかご）や茶道具など代々の技術を受け継いだ作品の制作を続けながら、竹によるインスタレーションや現代的なオブジェを制作。世界各地で展開する空間に広がるインスタレーションにより竹工芸の新しい可能性を見出している。

ロエベは四代田辺竹雲齋の作品に対するモダンな視座を称え、KYOTOGRAPHIEにおけるインスタレーション制作をサポートする。世界中の現代美術、工芸、文化をサポートするのはロエベの使命と考え、本サポートが実現した。

1973年大阪生まれ。華道家。1997年大阪府堺市に続くいけば流派、花道みささぎ流の家元を襲名。片桐の制作スタイルは伝統のいけばながら現代美術的なアプローチまで幅広く異分野の作家とのコラボレーションも多数。

2013年 - 14年の1年間福島県南相馬に移り住み、震災の爪痕が色濃く残る場所までひたすら花を生けて歩き、『Sacrifice —— 未来に捧ぐ、再生のいけばな』という写真集に昇華させた。2020年冬再び福島を訪れ、原発事故で飼いが避難勧告を受けた時に止むなく置き去りにした牛たちが空腹のあまりにかじって死んでいった牛舎の柱を撮影する。同シリーズと「Sacrifice」の写真作品及びいけばなのインスタレーションを発表予定。

ダミアン・ジャレ

世界的なコレオグラファー（振付師）。その活動はダンスの領域を超え、視覚芸術、音楽、映画、演劇、ファッションなどのさまざまな分野に広がっている。名和晃平とコラボレーションした「VESSEL」が2016年に日本初演の話題となり、世界各国で上演される。2020年に新型コロナウイルスが猛威を振るう中、パリ・オペラ座に招待され、9人のダンサーのための作品「Brise-Lames（防波堤）」を、アーティストのJR、ピアニスト・作曲家の中野公揮、ダンサーのエミリオス・アラポグルとコラボレーションして制作。公演がロックダウンによりキャンセルとなり、ルイズ・ナーボルニにより映像作品として収められたパフォーマンスがKYOTOGRAPHIE 2021で上映される。JRが撮影した同作品のスチール作品も展示される。

JR

世界各国の都市のストリートやスラムなどの路上で写真作品の展示を行なっている。2011年、TED Prizeを受賞。その後参加型の国際的なアートプロジェクト「Inside Out」を開始し、2021年3月までに138カ国42万人が参加。世界各国に登場する巨大フォトブースで撮影されたポートレートもしくはメールにて送られたポートレートが白黒写真となり出力され、世界中の屋外スペースで貼られ話題を呼ぶ。

1985年岩手県生まれ。写真家、ジャーナリスト。ロンドン芸術大学フォトジャーナリズム修士課程卒業。2012年、東日本大震災と福島第一原発・原発作業員を記録した写真集『RESET』（ラースミュラー出版/スイス）、2015年には太平洋戦争で被害を受けた子供たちの戦後を描いた『Silent Histories』（RM/スペイン）を発表。長期的視野からチェルノブイリ原子力発電所事故を記録した『Exposure/Everlasting』（2015）では世界報道写真賞を受賞。災禍の中で見えなくなっていく個に焦点を当てた作品制作に精力的に取り組みながら、2020年には米ナショナルジオグラフィック協会より助成を受けて、コロナ禍の最前線で働く看護師・介護士による看取りの記録を続けている。

KYOTOGRAPHIE2021では、収束作業を担う福島第一原発作業員を追った作品と、新型コロナウイルスの医療・介護従事者に焦点を当てた二つのシリーズを展示する。

## アソシエイテッドプログラム

### LES DRÔLESSES by agnès b.

会場：BAL LAB（京都 BAL 4F）  
会期：11月28日まで



Série Les Drôles, 2020  
Blouson cuir, 1994, Jupe en voile de lin, 2011, Chemise-cravate, 2011  
© agnès b. 2021

2020年の春、ロックダウンにより自主隔離中だったアニエスベーは、フランス人美術作家のクレール・タブレが手がけた2点の肖像画を人物のように見立て、自身の私服のワードローブから選んだ服で、それをコーディネートした。その様子を春爛漫の私邸の庭で撮影し、生まれた写真作品の点数は80を超えた。茶目っ気があふれるアニエスベーの写真は、色あせることなく永遠に輝きつづける彼女の魅力を物語るかのようだ。

フランスのMAGNIN-Aギャラリーで2021年5月末から7月末まで開催される本展が、京都 BAL 3階に新設される agnès b. の店舗オープンにあわせて KYOTOGRAPHIE 2021 の関連プログラムとして京都に巡回。本展では、アニエスベーの子供時代や、デザイナーとしての彼女とアーティストであるクレールの関係性、そして数十年におよぶアニエスベーの創作活動についても知ることができる。

### なら国際映画祭とコラボレーション

#### 映画監督・河瀬直美セレクションの

#### 映像作品を上映

supported by agnès b.

会場：アニエスベー 京都 BAL 店ギャラリースペース他

2010年に映画監督の河瀬直美をエグゼクティブディレクターに迎えた「なら国際映画祭」。2年に1回開催される映画祭の企画運営の他、国内外の若手監督と奈良を舞台とした映画制作や、こども・海外学生とのワークショップ、奈良市内を移動する映画館「ならシネマテーク」など、映画の魅力を伝える数々のプロジェクトを実施しています。

KYOTOGRAPHIE 2021 は、なら国際映画祭、そして映画監督の河瀬直美とコラボレーションし、今年のテーマ「ECHO」に呼応した、セレクト映像作品を会期中に上映します。

### クラウドファンディングを2021年も実施

たくさんの方のご支援・ご協力を得て継続してきた KYOTOGRAPHIE は、写真を通じて社会を考えてゆくプラットフォームへとさらに成長すべく、今年もクラウドファンディングへ挑戦します。

#### KYOTOGRAPHIE 2021 京都国際写真祭 継続のためご支援を

〈プロジェクト概要〉

・目標金額：1000万円

※ All or Nothing 形式

目標金額を達成した場合のみ、集まった支援金を受け取ることができます。

・募集期間：2021年7月1日（木）－8月19日（木）23:00頃まで  
プロジェクトページは以下の URL よりご覧いただけます。

<https://readyfor.jp/projects/kyotographie2021>

## KG + (ケージープラス)



### これから活躍が期待される

#### 写真家やキュレーターの発掘と支援を目的と

#### した公募型アートフェスティバル

京都から新たな才能を世界に送り出すことを目指し、意欲ある参加者を広く募集して展覧会を開催いたします。

また、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭との連携・同時開催を通して、KG+ 参加アーティストに、国内外のキュレーターやギャラリストとパブリッシャーらとの出会いの場と情報発信の機会を提供します。

元・京都市格致小学校を始め、市内各所およそ30ヶ所で展開される多様な表現が、地域と訪れる人々をつなげ、新たな発見や交流が生まれることを期待します。

#### 開催概要

名称：

KG+ (ケージープラス) KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

サテライトイベント

英語表記：

KG+ KYOTOGRAPHIE INTERNATIONAL PHOTOGRAPHY FESTIVAL SATELLITE EVENT

会期：2021年9月17日（金）－10月17日（日）

主催：一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

（参加募集は6月16日に締め切りました）

主催：一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

共催：京都市、京都市教育委員会

メインスポンサー：株式会社グランマール、株式会社シグマ

スペシャルスポンサー：京都中央信用金庫

### KG + SELECT (ケージープラスセレクト)

KG+の中で2019年から始まった新しいプログラム「KG+ SELECT」では、国際的に活躍する審査委員会によって応募の中から選出されたアーティスト9名に制作補助金が与えられ、元・京都市格致小学校の各教室で紹介。

この中から KG+ AWARD2021 グランプリが一組選ばれ、2022年の KYOTOGRAPHIE のオフィシャルプログラムのひとつとして展覧会が開催されます。

9月17日（金）－9月20日（月）ブックフェア

9月17日（金）－10月17日（日）キッズプログラム



### KG+ Square by Chushin

#### (京都中央信用金庫 旧厚生センター)

#### KG+ インフォメーションセンター&

#### アーティストショップ

京都中央信用金庫の旧厚生センターに KG+ のスペシャルベニューを設置します。同会場では、KG+ インフォメーションセンターの他、市内30ヶ所以上で行われる予定の、KG+ 写真展への出展作家の一部作品や、写真集を集約したアートショップを設置します。

また、期間中同会場にて京都中央信用金庫の80年の歴史を紹介する写真展を開催します。

